

Press Release

結核の集団感染事案の発生について

令和 7 年 8 月に医療機関から名古屋市へ発生届のあった結核患者について、名古屋市が同居者を、岐阜県が通学先である岐阜県内の学校の関係者を、そして本市が豊田市内のアルバイト先の関係者を対象に、それぞれ接触者健診を実施したところ、結核の発病者 4 人及び感染者 20 人が確認されました。

- 発生事案について
 - ・初発患者の概要 名古屋市在住 20 代男性（学生）、令和 7 年 7 月頃発病
 - ・初発患者の症状 咳、発熱
 - ・集団の概要 同居者、学校関係者、アルバイト先関係者 計 116 人
- 接触者健診の結果について（太枠は豊田市実施分／単位：人）

区分	対象者数	受診者数	結果			
			異常なし	発病者	感染者	経過観察
同居者	3	3	0	3	0	0
学校関係者	103	103	81	1	18	3
アルバイト関係者	10	10	8	0	2	0
計	116	116	89	4	20	3

※感染者…結核菌に感染しているが発病に至っていない者で、発病を防ぐための投薬治療が必要な者。結核菌を排出（排菌）していないため、他者へ感染させるおそれはない。

- 今後の対応
各管轄保健所等と連携し、服薬支援や対策指導を実施します。
- 取材について
本報道発表は、市民の皆様への結核に関する啓発を目的としたものです。報道にあたっては、発病者等の人権尊重に十分なご配慮をお願いします。なお、個人情報及び会社名等につきましては、プライバシー保護の観点から公表しません。

以上（添付資料：有 写真データ：無）

結核はまだまだ身近な病気です！ 結核について正しく知しましょう

1 結核とは

結核は結核菌によって発生する感染症の一つです。医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できる時代になりましたが、今でも年間 10,000 人以上の新しい患者が発生し、1,400 人以上が命を落としている日本の主要な感染症です。

最初は風邪に似た症状で始まりますが、痰（たん）のからむ咳、微熱、身体のだるさなどが 2 週間以上続いている場合には、結核も疑い、呼吸器内科などの専門医療機関を受診しましょう。

2 本市における新登録患者数および結核集団感染事例数

年次	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年※ ²
新登録患者数（人）	28	36	28	19	39
集団感染事例数※ ¹ （件）	0	0	0	0	0

※1：初発患者が市内在住の場合を計上

※2：12 月末速報値

3 どのように感染するのか

たんの中に結核菌が出る結核患者さんがせきやくしゃみをする、しぶきが飛び散ります。このしぶきの中の結核菌を吸い込むことで、感染します。

菌は肺まで到着する途中で、鼻やのど、気管支の粘膜にひっかかり、からだの外に運び出されます。肺の奥まで吸い込まれた菌が、増え始めると「感染」したことになります。

4 感染と発病

感染した状態で、免疫の働きによって結核菌の増殖が抑えられている間は発病しません。ただし、免疫の力だけでは結核菌を完全に殺すことはできないので、休眠状態で生き続けます。そして、体の抵抗力が低下すると結核菌の増殖が活発になり、病巣をつくと結核になった（発病した）といいます。

「感染」は、結核菌を吸い込んで、からだに結核菌が閉じ込められた状態をいいます。「発病」は、からだの免疫力・抵抗力の低下により結核菌が活動を始めることをいいます。

発病には、感染してから早い時期（6 か月から 2 年）に発病する場合と、感染してから何十年も経って発病場合があります。また発病するのは、感染した人の 1 割から 2 割程度で、一生発病しない人もいます。

5 結核患者さんがすべて人に感染させるわけではありません

たんの中に結核菌が含まれていると、人に感染させる恐れがあります。しかし治療すれば 2 週間から 3 週間ほどで症状は軽くなり、菌の量も減少していきます。また、発見が早く、たんの中に菌が含まれていないようなら、感染させることはありません。

6 症状

せき（2 週間以上続くもの）、たん・血痰（たん）、発熱、胸痛、だるさ、体重減少、寝汗など

7 結核の治療

結核は抗結核薬を正しく服用することで治る病気です。

ア 結核の治療（発病しているときの治療）

結核は 3 種類から 4 種類の抗結核薬を約 6 か月から 9 か月間服用して治療をします。

イ 潜在性結核感染症の治療（発病していないときの治療）

結核に感染した直後に、1 種類から 2 種類の抗結核薬を約 3 か月から 6 か月飲めば、その後結核になる可能性を低く抑え込むことができます。家族や親しい人に結核患者さんがいて、感染が判明した場合や、感染をしている人がリウマチなどの治療で免疫抑制剤などを使用する際にこの治療をします。

8 結核から身を守るには

ア 予防接種を受けましょう。

結核の予防法には予防接種（BCG）があります。BCG は結核の発病を抑えるワクチンで、たとえ発病したとしても重症化を防ぐのに役立ちます。特に乳幼児では、感染してすぐに発病し、結核性髄膜炎など、命にかかわるほどの重症の結核になる恐れもあるので、生後 5 か月から 7 か月頃に BCG の接種を受けることが重要です。

イ 年に 1 回胸部エックス検査を受けましょう。

定期的な胸部エックス検査は、結核の早期発見、早期治療に役立ちますので、年に 1 回受けるようにしましょう。普段から健康的な生活を送り、免疫力を高めることも発病予防になります。2 週間以上続くせきなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

9 参考資料

- ・厚生労働省ホームページ（結核）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/index.html

- ・豊田市ホームページ（結核）

<https://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/kenkou/eisei/1003074.html>